

令和2年度 第2回 「生徒による授業アンケート」(2学年)の集計結果等について(報告)

本校の教育活動につきましては、日頃ご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、このたび「生徒による授業アンケート」を実施し、貴重なデータを得ることができました。その集計結果を受け、各教科で分析するとともに授業改善への手立てを検討し、研究授業を実施するなど授業の質を今まで以上に高める取組を進めています。

つきましては、各教科における集計分析結果及び授業改善への取組の概要をご覧ください、ご質問、ご意見等、お気づきの点がありましたら、ご連絡くださるようお願いいたします。

[問合せ先 副校長 (046)241-8001]

1 アンケートの実施日
令和2年12月25日(金)

2 各教科の集計分析・授業改善(概略)

国語	集計分析	現代文Bにおいては、「授業のあり方について」の項目で1学期に引き続き肯定的回答率が高くなっている。しかしながら「予習復習」については改善が見られない結果となった。「意欲的に取り組む」とする回答が80%を超える中、難しい問題点である。古典A・Bにおいても、「授業のあり方について」の項目で80%の生徒が肯定的回答をしている。また、「意欲的に取り組む」とする回答も現代文同様80%に及ぶものの、約3分の1の生徒が「予習復習」に取り組んでいない状況がみられる。
	授業改善	1学期末に「生徒の満足度の高い授業に向け理解しやすく学びが生きる授業」という目標を設定したが、その結果がある程度出ているアンケート結果である。しかし、「予習復習に取り組む」割合が低い状態は改善されていない。国語科だけの問題点ではなく、学校としての取り組みの必要性がある課題であろう。引き続き国語科の課題としても取り上げ、より効果的な実践方法を模索していきたい。
地歴・公民	集計分析	世界史Aは、60%以上の生徒が肯定的回答をしており、概ね前回と同じだった。否定的回答も同じ傾向であったので、授業内容の理解を図る工夫が必要と考えられる。時事問題研究は否定的回答率が減った。通常授業となつて、内容理解がしやすくなったと考えられる。日本史Bでは、「予習・復習をしている」項目以外、肯定的回答率が80%を超えていた。前回と同様、「予習・復習をしている」項目は否定的回答率が30%を超えているので、もっと生徒が自主的に学習する習慣を身に付けさせる工夫が必要だと考えられる。世界史Bではすべての項目で最も否定的な回答を選択した生徒がおらず、1学期と比較し全体的に改善傾向にあると考える。日本史Aでは1学期と比較し大きな変化はなかったものの、「主体的な学び」でやや否定的回答をした生徒が増加しており、主体的な取り組みについての改善が必要であると考えられる。
	授業改善	世界史Aは、用語の理解・区別ができるよう、授業の説明や板書を工夫したい。時事問題研究は、生徒各自が調べ学習を深めたり、発表ができる機会を取り入れたい。日本史B、世界史B、日本史Aは、生徒自身が自主的に学習するような関心を持てる授業を行い、「予習・復習への取り組み」について改善していきたい。
数学	集計分析	回答の傾向は概ね1学期と同様であったが、文系において否定的回答をした生徒が全体的に増加した。とくに「予習・復習」の項目と、「身についたことを実感できた」という項目において、否定的回答をした生徒の増加が顕著である。一方で、理系については肯定的回答をした生徒が全体的に増加した。「予習・復習」の項目において大きな改善が見られたのは喜ばしいことである。2学年になってから始めた週末課題などの取組みが効果をあげたと言える。
	授業改善	通常授業が再開し、学習内容が深まっていく中で、授業の内容を理解できなかったという場面も出てきているものと考えられる。以前の学習内容の復習もしっかり取り入れて、「わかる授業」の実現に向けて取り組んでいく。理系の授業については、内容がさらに深まり、難しい場面も多々あると思うが、過去の学習内容との接続をしっかり行い、生徒が意欲的に取り組める環境づくりに取り組んでいく。
理科	集計分析	化学基礎(文系・スポ科)では、どの項目も肯定的回答率が微減しており、否定的回答をした生徒が若干増えたようだ。化学基礎研究では、質疑応答を取り入れたが、「対話的な学び」では肯定的な回答が若干増えるに留まった。物理基礎研究では、概ね1学期と同様の結果であった。生物基礎研究では、1学期に比べて「学習の見通し」、「身についたことの実感」の項目で否定的回答をした生徒が増えている。
	授業改善	化学基礎(文系・スポ科)では、やはり予習復習に関して定着させたいと考えている。宿題や家庭学習ができるような教材の準備や取り組みが必要であると感じた。化学基礎研究では、多様な意見がしやすいテーマを考えて、「対話的な学び」がより深まるよう取り組んでいきたい。物理基礎研究では、引き続き予習・復習の定着を図るとともに、取り組みやすい授業となるように教材の工夫を行っていきたい。生物基礎研究では、「他者の考えを知る機会」を増やせるような授業展開を計画していたが、思うように行うことができなかった。今後も、思考力を高める授業展開を工夫していきたい。

令和2年度 第2回 「生徒による授業アンケート」(2学年)の集計結果等について (報告)

保健体育	集計分析	<p>体育において、1学期に引き続きほとんどの項目について80%以上の生徒が肯定的回答をしており、概ね良い結果といえるが、武道においては、「予習・復習をしている」という項目について、否定的回答をした生徒が多かったことから、授業改善の必要性を感じた。また、「話し合いや発表をする機会」、「わかる努力」の項目において肯定的回答率が80%を下回っていたのは、実技科目であるためと考えられる。</p> <p>保健においても、1学期に引き続きほとんどの項目について80%以上の生徒が肯定的回答をしており、概ね良い結果といえるが、「わかる努力」、「予習・復習」など肯定的回答率の少し低い項目もみられるので、授業改善の必要性を感じた。</p> <p>スポーツ概論・スポーツ科学研究においては、「身につけてことを実感できた」の項目において約80%の生徒が実感できていると回答した半面、学習内容がやや難しいことは否めず、「理解しにくい」、「取り組みにくい」と感じる生徒が20%近く存在することから、やはり授業改善が必要という結果となった。</p>
	授業改善	<p>体育においては、1学期に引き続きほとんどの項目について80%以上の生徒が肯定的回答をしており、概ね良い結果のため継続して指導を行うが、武道においては、「学習の状況について」の「予習・復習をしている」の項目で肯定的回答率が80%を下回っていたことから、予習・復習ができるような授業改善の必要性を感じた。</p> <p>保健においても、ほとんどの項目について80%以上の生徒が肯定的回答をしており継続して指導していくが、「わかる努力」、「予習・復習」などでは肯定的回答率が少し低いので、授業内容をより分かりやすくする必要性を感じた。</p> <p>スポーツ概論・スポーツ科学研究においては、学習内容がやや難しいことは否めず、「理解しにくい」、「取り組みにくい」と感じる生徒が20%近く存在することから、授業内容の改善が必要という結果となった。</p>
英語	集計分析	<p>コミュニケーション英語Ⅱ、英語総合において「授業のあり方について」、「学習の状況について」の各項目で約80%の生徒が肯定的回答をしており、1学期に比べても取り組み状況に大きな差はみられない。その中で「予習・復習をしている」では約40%の生徒が否定的回答をしているが、1学期に比べてこの数値が増えている。英表Ⅰ(スポ科)は1学期に比べ全般に肯定的回答率が上昇している。特に、「予習・復習をしている」では70%の生徒が肯定的回答をしている。</p>
	授業改善	<p>コミュニケーション英語Ⅱは復習を授業内に取り入れることによって授業内容の理解定着を図っていく。英語総合では自分で学習するインプットの場面と自分の考えを表現するアウトプットの場面でバランスを図りながら、予習復習ができる機会を取り入れていきたい。また、2年生になりより一層、生徒の理解度、達成感をさらに高めていく必要があると感じる。英表Ⅰでは引き続き、授業プリントの提出や週末課題を出すことにより基礎学力の定着を図り、生徒の理解度・達成感を高めていきたい。</p>
家庭	集計分析	<p>1学期と比較して全体的に肯定的回答率が減少した。原因として、2学期は扱う単元が多く、学習の定着ができなかった生徒が増えたためだと考える。「取り組みやすく理解度に合わせた授業」や「意欲的に取り組んでいる」については、食生活や衣生活など生徒の生活に通じる身近な題材を扱ったため、肯定的回答をした生徒が多かった。</p>
	授業改善	<p>授業に達成感をもって取り組むことができるように、授業目標に向けて自分の考えをまとめやすくするために適切な資料の提示、知識の定着を図っていききたい。また、ワークプリントをわかりやすくしたり、話し合いや発表をする機会を増やすことで、他者の意見などからも授業に対して関心や意欲をもたせられるようにしたい。</p>
芸術	集計分析	<p>授業のあり方については約80%の肯定的回答率を得ることができている。「予習・復習をしている」の項目について、否定的回答率は30%近くに上る。実技科目の特性上、予習・復習等の取り組み方について生徒に合わせた指示ができていないのではと考える。</p>
	授業改善	<p>「予習・復習をしている」の改善について、授業内容を予習させるために今までの授業との関連性を明確に指示したり、どのような点に留意して復習するべきかを授業内で伝えることを強化していききたい。また、授業内での目標意識を強く保持させるために生徒へのアプローチ等も改善したい。</p>